NGO海外援助活動助成・多文化共生推進活動助成

NEWSレター

一般財団法人ゆうちょ財団
国際ボランティア支援事業部

第8号
2025.7

写真1：6月15日に日比谷図書文化館で開催されたイベント

NPO紹介 | **特定非営利活動法人 ナタデココ**

子どもたちの心に世界地図を描く！

人口減少が進む日本社会では、外国人との共生が喫緊の課題となっています。文化の違いから生じる摩擦や、孤立しがちな留学生の存在は、地域コミュニティの活性化を阻害する要因です。

この現状に対し､NPOナタデココは幼少期からの異文化「原体験」の機会を日本の子どもたちに提供し、同時に外国籍の方々には社会参画の場を創出することで、双方にとってのWin-Winの関係を築く活動を行っています。これは、コミュニティ内の相互理解を深め、新たな繋がりを生み出すための不可欠なステップです。

NPOナタデココの活動は、全国の小学生、定住外国人、そして外国人留学生を対象とした文化交流教育です。公共施設や学校を訪問し、言語にたよらないノンバーバルゲームやクイズなどを通して、互いの文化に触れる機会を提供します。特に、海外や外国人に対し抵抗感を持つ子どもたちへのアプローチを重視しています。

2025年からは、これまでの活動に加え、病院や児童養護施設への訪問も開始しました。また、全国の幼稚園・小学校向けに文化交流キットを送付することで、より広範な子どもたちに異文化との接点を提供しています。本プログラムは、異文化コミュニケーション学の専門家と連携し、子どもたちが「共感する力（エンパシー）」を総合的に身につけることを目指し、日本の未来を支える次世代の育成と、多文化共生社会の実現に貢献するものです。

ゆうちょ財団では、6月15日に日比谷図書文化館で行われた同団体のイベント(文化交流教室）を取材しました(写真1）。

外国人ボランティアの声

NPOナタデココには現在150名程の外国人ボランティアがグローバルスタッフとして登録されているそうです。6月15日のイベントには10名程の方が参加されていました。今回、ナスチャさんとアウマさんにインタビューしました。

――最初にご自身のことを教えてください。

ナスチャさん：ロシアから来ました。日本に来て2年半ぐらいです。 1年程ランゲージスクールで日本語を勉強して、その後は仕事についています。

アウマさん：ケニアから来ました。大学生です。日本に来てまだ９カ月なので英語しか話せません。

――このイベントに参加しようと思ったきっかけは何ですか。

ナスチャさん：1年ぐらい前にボランティアの募集を探していました。しかし、当時の私の日本語のレベルでは難しいものばかり。その時、SNSで英語で書かれていたNPOナタデココの活動を見つけました。

アウマさん：友だちからの紹介かSNSだったかは覚えていませんが、前にも参加したことがあります。小さな子どもたちとインタラクティブに交流できてとても癒されるので参加しました。

写真2：ナスチャさん

写真3：アウマさん

写真4,5：子どもたちとの交流のもよう

――今日のイベントを通じて何か発見はありましたか。

ナスチャさん・アウマさん：今日のイベント、本当に楽しかったです。いろんな国のダンススタイルを学べるというのがとてもよかった。子どもたちのテーマ音楽ということでとても良くて、子どもたちが楽んでいるのが何より良かったと思います。

――今回のイベントを通じてどんな気持ちになりましたか。子どもたちに伝えたいメッセージはありますか。

ナスチャさん・アウマさん：今日のイベントは音楽がテーマということでエキサイティングで楽しかったです。頑張って英語を使ったりとか、国際交流を通じていろんな経験を積むことで前向きな子に育ってほしいと思います。

――今後、どのような形で日本の地域社会や子どもたちと交流していきたいと思いますか。

ナスチャさん：私はもう少し年上の中学生くらいの子どもたちとも触れ合っていきたいと思います。

アウマさん：これからも今日のようなシンプルで子どもたちにも分かりやすい遊びで交流するのがとてもいいと思っています。

――ナスチャさん、アウマさん、ありがとうございました。

参加した お子さん・保護者様の声

今回のイベントには2歳くらいから小学4年生くらいまでの30名程のお子さんが参加しました。その中から1組のお子さんと保護者の方にインタビューしました。

――お子様がこの文化交流教室に参加されたきっかけは何ですか。この今回の参加は何回目ですか。

ひなちゃん(お母様)：小さい頃から外国の方と接しているかどうかで、大人になったときの違いは大きいと思います。普段、子どもには英語を習わせていますが、実際に外国の方と遊んだり接したりする機会はあまりないと感じており、今回のような機会はとても貴重だと思いました。今回の参加は3～4回目になります。

――参加される前と後で、お子様に何か変化はありましたか。

ひなちゃん(お母様)：最初はシャイというか、見ている私のとこにいつも戻ってくるという感じだったんですが、今は積極的に参加するようになりました。お家でも国旗や国に興味を持つようになったというのもあります。

――今日のイベントで特に楽しかったことは何ですか。初めて知ったことは何かありましたか。

ひなちゃん(お母様)：みんなにメッセージカードにサインしてもらったことです。イタリアのオレンジ祭りのことは初めて知りました。

写真6：ひなちゃんとお母様

――このようなイベントにまた参加したいと思いますか。

ひなちゃん(お母様)：成長するにつれて楽しみ方や反応も豊かになっているので、継続的に参加したいと思います。

――ひなちゃん、お母様、ありがとうございました。

NPOナタデココ・スタッフへのインタビュー
～tomoさんに聞きました～

写真7：NPOナタデココスタッフのtomoさん

――最初に団体名「NPOナタデココ」の由来を教えてください。

tomoさん：もちろんフィリピン発祥のお菓子のナタデココからですが、団体の代表者が、初めて触れた外国のお菓子で、そこから外国に強い興味をもったようです。

――この「文化交流教室」はどのような目的で始められたのですか。

tomoさん：この団体は、日本で暮らしている小学校1年生から4年生の子どもたちを主な対象としています。最近、英語教育が早期化してき

ている一方で、「英語ができないから海外が怖い」「外国人と話したくない」と感じる子どもが実は増えている、という統計があります。それはとてももったいないことだと思うんです。今、本格的な英語教育は小学校5年生から始まりますが、3年生からプレ英語としての授業も取り入れられています。そこで、英語が本格的に始まる前の子どもたち——特に4年生までの子たちを対象に、異文化体験の機会を提供することで、「言葉が話せなくても海外の人と話せるし、楽しいんだ」という経験を積んでほしいと思い、この活動を始めました。

——イベント運営で特に力を入れている点、または工夫している点はどのようなところですか。

tomoさん：イベントを企画する際に特に意識しているのは、子どもたちに「五感で感じてもらうこと」です。頭で考えると緊張してしまったり、「海外の人＝こわい」と感じてしまったりすることがあるんです。しかも、接する相手が大人の外国人である場合が多いため、心理的な安全性を確保することがとても大切だと考えています。

たとえば、今日ご覧いただいたように、参加者が会場に入ってすぐに話さなければならないような空間ではなく、まずはバルーンで遊んだり、サイコロを投げ合ったりするような、言葉を使わない「非言語の環境」を整えています。そうすることで自然と交流が生まれるようにしているのです。また、体を動かすことで非言語の交流がしやすくなるので、そのようなプログラム作りを心がけています。ダンスなどがその一例ですね。

——過去の開催で印象に残っているエピソードがあれば教えてください。

tomoさん：やはり印象に残っているのは、子どもたちの変化ですね。最初はとても緊張した様子で入ってきた子どもたちが、1時間足らずのプログラムの終わりには「楽しかった！」と笑顔で帰っていく姿は、いつもとても印象的です。

それと同時に、グローバルスタッフの方々にも良い影響があるのではないかと思っています。今日は都市部での開催でしたが、地方でイベントを実施することもあります。そういった場合、その地域の文化に触れながら、一泊二日のプログラムの中でイベントを実施する形になります。

つまり、地方を体験できるし、現地の子どもたちと触れ合うこともできるのです。グローバルスタッフにとっては、日本の相互理解を深める良い機会になりますし、思い出に残る体験として「また参加したい」と言ってくださる方も多いです。

——今までの活動の中で、子どもたちが一番興味を持ったテーマは何でしょうか。

tomoさん：テーマそのものというよりは、やはり「体を動かすダンス系の活動」や「クイズ」などが特に盛り上がる印象です。

非言語の交流による体験や、知識に驚きがあるようなコンテンツは、子どもたちにとって刺激的なようですね。

一番盛り上がったダンスは、今日の「ベイビーシャーク」や「バナナダンス」などです。振り付けが分かりやすく、すぐに覚えられるので人気があります。また、いつも同じダンスばかりではなく、「よさこい」を取り入れることもあります。その際には、外国人スタッフが日本の踊りを覚え、子どもたちに教えるような形にして、これもまた大変盛り上がります。実は、子どもたち自身も「よさこい」を知らないことがあり、お互いに新しい発見になるんです。

——今後の展望や、より多くの人に届けたいと考えているメッセージはありますか。

tomoさん：現在、私たちのスタッフの多くは首都圏にいますが、この団体の目的は「全国の子どもたちに文化体験を届けること」です。そのために今、「先生が申し込める異文化交流キット」という教材の開発を進めています。

また、参加してくださっている保護者の方々や、グローバルスタッフ、私たちスタッフがつながることができる「オンラインサロン」のような仕組みも整備中です。

これにより、首都圏だけでなく、地方にも同じような体験を届けたいと考えています。地域間の格差も意識しているため、それを少しでも是正できるようなツールや仕組みを、今後も考えていきたいと思っています。

——tomoさん、ありがとうございました。

編集後記

2024年度から多文化共生推進活動への助成を開始したことに伴い、本ニュースレターのタイトルを「NGO海外援助活動助成・多文化共生推進活動助成ニュースレター」と改めました。

今回はNPO紹介として、2025年度多文化共生推進活動の助成先である「特定非営利活動法人 ナタデココ」を取り上げています。同団体が6月15日に日比谷図書館で開催した文化交流教室のイベントを取材し、子どもたちや保護者の皆さん、そしてさまざまな国から集まったグローバルスタッフ（外国人ボランティア）の皆さんが織りなす熱気を肌で感じることができました。特にクイズやダンスの時間はひときわ盛り上がり、子どもたちがとても楽しんでいる様子が印象的でした。

最後になりましたが、お忙しい中、インタビューにご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。